

「あくまで始まりだ」

民主党と維新の党が合流で大筋合意した2月下旬。元外相の前原誠司(53)は国会内の一室で代表の岡田克也(62)と向き合った。前原は「よくここまでやっていた良かったです」と語りかけ、「これはあくまで野党再編の始まりですよ」と念を押しした。岡田は淡々と「自分もそう思っている」と応じた。

前原はかねて「1強多弱」の現状打破に向けて、幅広い勢力が参加した新党結成を岡田に促してきた。「何を自民党との対立軸にするかの旗を掲げれば、好き嫌いなくその大義の下に集まれる」というのが持論だ。

昨年11月初旬、東京・銀座のバーに前原ら保守派の3人が集った。「年明けに通常国会が始まると新党どころじゃなくなる。年内にやらないとなあ。岡田さんに伝えるよ」。前原は気脈を通じる政調会長の細野豪志(44)、元防衛副大臣の長島昭久(54)と申し合わせた。

しばらくして前原は岡田に会い、決断を求めた。「仮に何も

しなければ参院選は厳しい結果になる」と迫る前原に、岡田は「名前だけ変わっても仕方がない。最後は任せてほしい」と真意を明かさなかった。

同じ保守派でも前首相の野田佳彦(58)は、維新代表の松野頼久(55)らに複雑な思いを抱いていた。昨年夏、野田は岡田や維新前代表の江田憲司(59)らと意見交換した。「互いに解党して過去と決別し、新党をつくる」と促す江田に、野田は「江田さんが代表ならいいが、松野さんならちょっと」と漏らした。2012年夏、野田政権が決めた消費増税に反対して離党した経緯があるためだ。

今年1月30日、岡田が「新党結成も選択肢」と宣言した民主大会の夜、野田は貸し切りにした東京・銀座のジャズバーに自身が率いる「花斉会」メンバー約15人を集めた。「誰より民主党に思い入れがあるのが岡田さんだ。その岡田さんが言うんだから支えようじゃないか」。維新の「戻り組」の合流を認める考えを伝えた。

不満はくすぶっている。民進党は幹事長の枝野幸男(51)からリベラル系が執行部に残り、政調会長だった細野は外れた。結党大会後、細野は「ちょっと左に寄りすぎだが、執行部はこれで勝負する覚悟を決めたんだろ。俺はしばらく黙っているよ」と漏らした。

民進党はこれから7月の参院選の公約作りを本格化する。安全保障政策などを巡って摩擦が強まる恐れはある。(敬称略)

苦闘する野党 2

迫真
HAKUSHIN

民進党



民進党の結党大会で氣勢を上げる岡田代表ら新執行部

(27日、東京都港区)